

FLAKPANZER IV WIRBELWIND

ヴィルベルヴィント

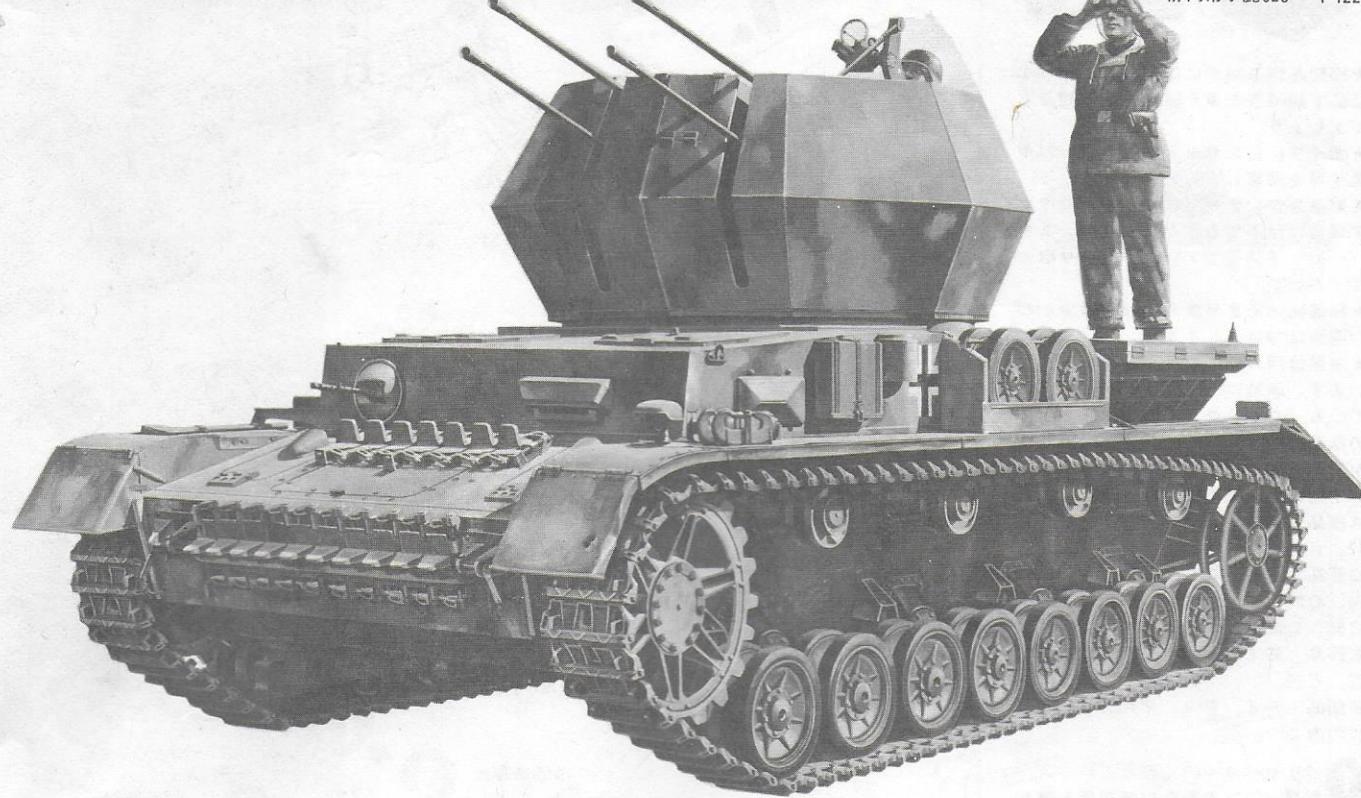
20mm4連高射砲38型 1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.85

KIT NO. MM185



TAMIYA

静岡市小鹿628 〒422



第2次大戦の始まりとなったポーランド戦からソ連戦にいたるまで、ドイツ空軍は常に制空権を握り、強力な傘となって地上部隊の援護を行いました。ドイツ戦車部隊が縦横無尽の活躍をみせ、見事な「電撃戦」の成果をおさめたのも、この空軍の空からの援護があったからでした。しかし間もなく、空軍の傘がなくなるとどういうことになるのかをドイツ地上軍も知る時がくるのです。この初めての経験を強いられることになったのが、北アフリカのロンメル・アフリカ軍団でした。さえるものもない砂漠では、イギリス軍戦闘機の低空攻撃に対しては戦車でさえもなすすべがなかったのです。

ドイツ軍は、開戦当初より、20mmおよび37mm高射機関砲をハーフトラックに搭載して自走化し、中・低空域で侵入してくる敵機に備えていました。しかし戦争の進展と共に航空機の性能、火力が増大し、対空火器自体の防禦も重大な問題となってくるのです。

ドイツ兵器局は、軽戦車の車体を改良して対空火器を搭載し、この問題を何とか解決しようとしました。この結果、まず登場したのがチェコのスコダ製38(t)戦車の車体に20mm高射機関砲1門を搭載した対空戦車でした。そして、こうした構想がエスカレートして量産中のIV号戦車の車体を利用した対空戦車の開発につながるのは当然の結果でした。ヒトラーは、1943年5月14日 20mm 4連装高射機関砲38型および37mm高射機関砲43型を搭載したIV号対空戦車の開発を命じたのです。この2種類の対空戦車の試作車は間もなく完成し、同年12月7日にヒトラーの観閲を受けていま

す。このIV号対空戦車は、メーベル・ワーゲン(Möbelwagen・家具運搬車)と呼ばれました。

このメーベルワーゲンの生産がようやく軌道に乗った1944年4月、戦車部隊総監は新たなIV号対空戦車の開発を指令しました。それは次のようなものです。

1. 対空砲を3~4名の乗員と共に完全な装甲砲塔に入れること。
2. 砲の有効射程は2000mとする。
3. 少なくとも2連装砲とする。
4. 十分な弾薬を携行できるものとする。
5. 車高は3m以下とする。
6. 無線装置を完備すること。

こうしてIV号対空戦車は、4連装20mm高射機関砲を新たなるオープントップ型装甲砲塔に備えたヴィルベルヴィント(Wirbelwind・つむじ風)の出現となるのです。また同様の装甲砲塔に37mm高射機関砲を搭載したIV号対空戦車も同時に開発され、オストヴィンド(東風)と呼ばれてそれまでのメーベルワーゲン37mm高射機関砲搭載型と併行して生産されることになりました。

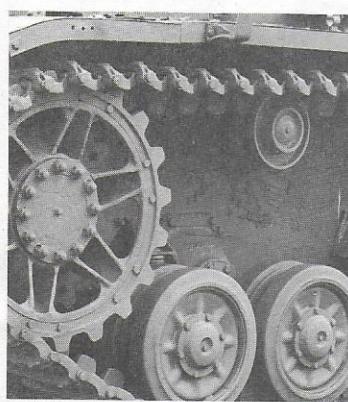
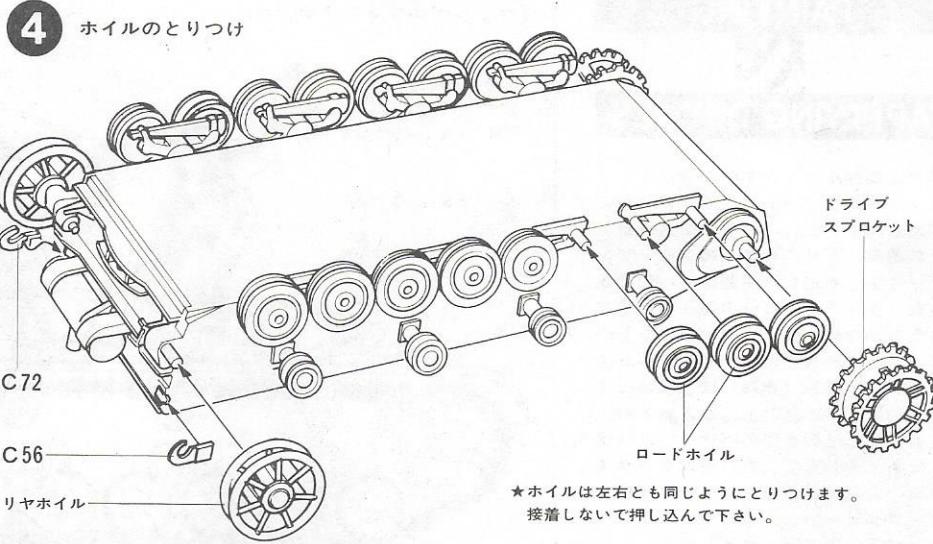
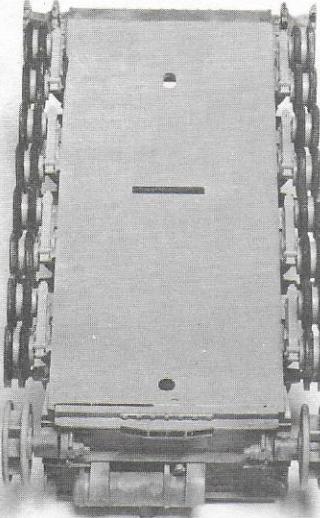
ヴィルベルヴィントの特徴は、何といっても9角形の台形を上下に合わせたような18面の装甲板で構成されたオープントップ型の砲塔と言えるでしょう。メーベルワーゲンでは移動時はともかく、射撃時には高射機関砲を回んだ板をちょうどトラックのように四方に開かなければならず、砲手の実質的な防禦は無に等しいものでした。この意味からたとえオープントップ型とはいえ、装甲板による回転砲塔が与えられたことは大きな進歩と言えま

す。この砲塔は16mmの装甲板が使われ、高さは砲手と2名の装填手が席についた時、頭がちょうどかくれる高さの1.05mにつくられています。このため、車高を指令以下の2.76mに抑えることができたのです。砲塔の旋回は手動式で、すべて砲手のハンドル操作によって行なわれました。搭載された4連装20mm高射機関砲は、連合軍バイロットから「地獄の4連装」と恐れられた高性能砲で、その性能は最高射撃速度・毎分800発、最大有効射程3700m、給弾方式は弾倉式となっています。またヴィルベルヴィントは90個の弾倉と3200発の弾薬を携行することができました。

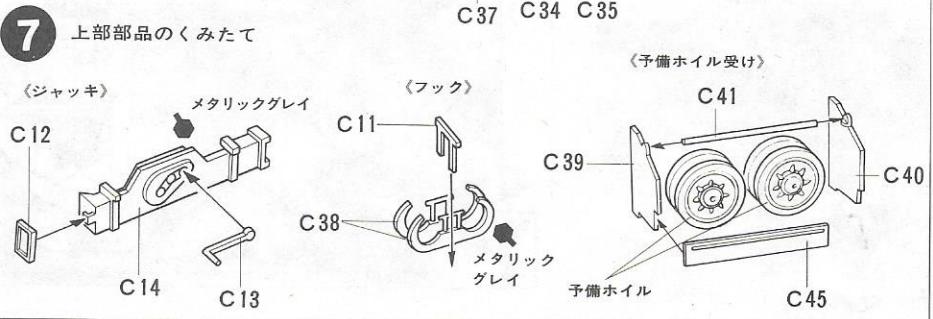
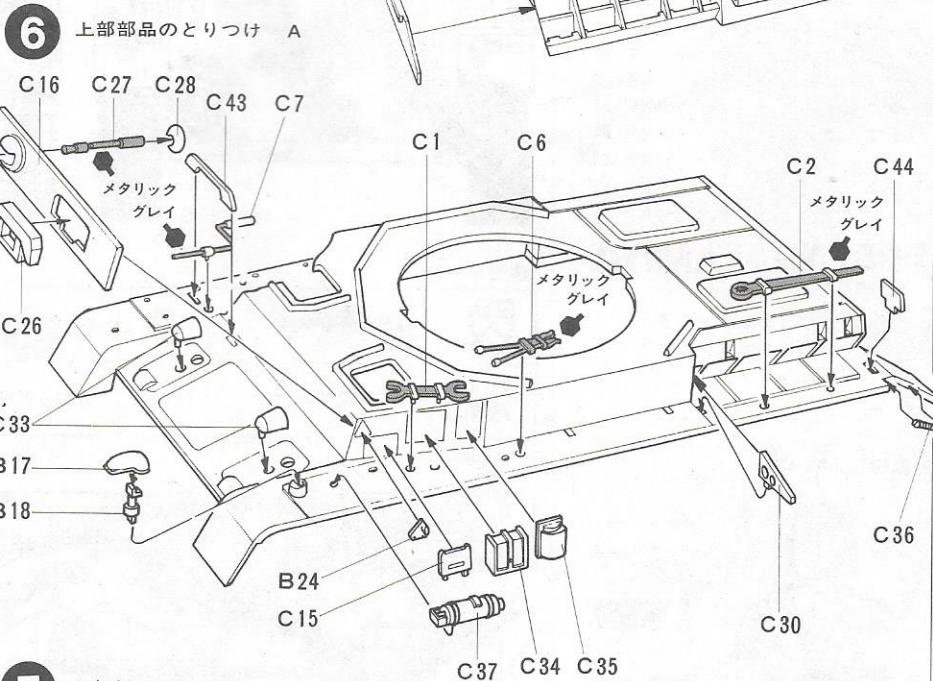
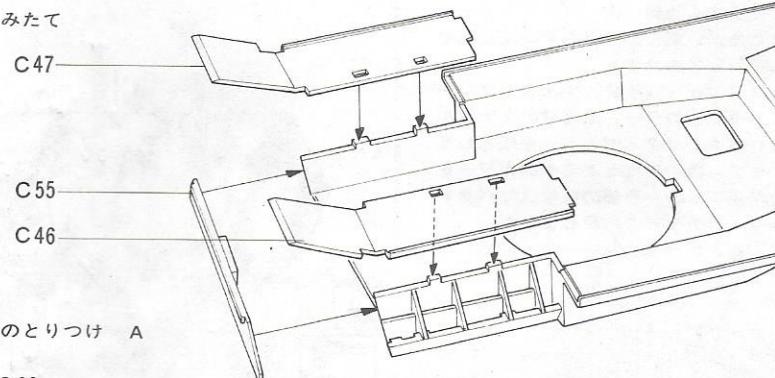
ヴィルベルヴィントの生産は、砲、砲塔などを別工場で生産し、それを主にザーガン市にあるオーストバウ車に送って車体に組み込む方式がとされました。砲はウーン市のオーストマルク社より、砲塔はルールにあったドイツ・レーベンヴェルケ社から輸送されたのです。生産数は1944年に100輌、1945年(2月まで)5輌の合計105輌と記録されています。

ヴィルベルヴィントが実戦に加わったのは、ノルマンデー戦後半の1944年8月からでした。そして、そのほとんどが西部戦線に送られたのです。これは1944年4月7日、IV号対空戦車の最初の配属を西部戦線の部隊とすることを望んだヒトラーの意向があったからです。こうしてヴィルベルヴィントの多くは師団司令部付きや連隊本部付き対空小隊の主力となって、サンダーチーフやタイフーンなど連合軍の地上攻撃用戦闘爆撃機と激しい戦いをくりひろげることになるのです。

4 《ホイールのとりつけ》
各ホイールは接着せずに押し込みます。



5 上部のくみたて



ST J.T.A SAFETY TOY J.1091365

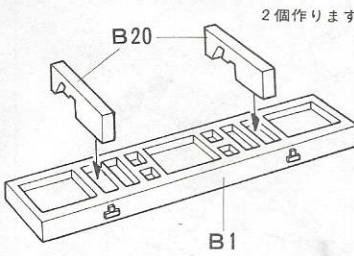
家庭用品品質表示法による接着剤品質表示
1. 幼児の手の届かないところに保存し、いたずらをしない様注意して下さい。
2. 火気に注意し換気をよくして下さい。
3. 故意に吸わない様注意して下さい。
表示者 S.Z.3000 S.Z.3006 S.Z.5013

取り扱い上の注意
袋は、部品を取り下さないよう注意して下さい。
袋は、袋が破裂したときに被りたりして、幼児が見出されないようにして下さい。

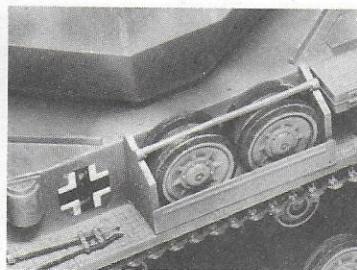
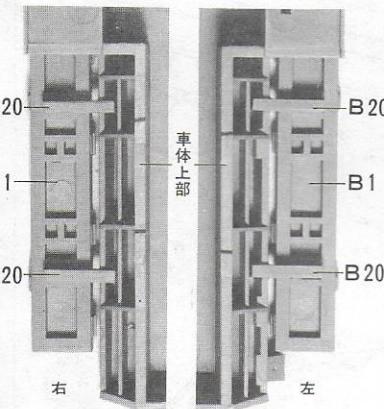
8 《上部部品のとりつけB》

⑦で作った予備ホイル受けとフックをとりつけます、アンテナは下図を参考にしてつくって下さい。

《予備銃身ケースのくみたて》



《予備銃身ケースとりつけ写真》



9 《上部部品のとりつけC》

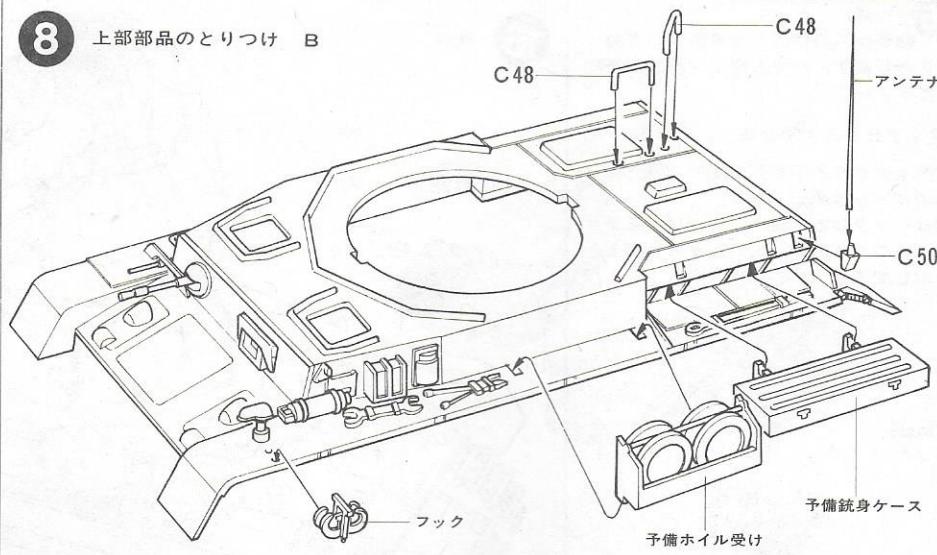
各パーツは番号をたしかめてとりつけて下さい。小さなパーツは塗装がすんでからとりつけます。



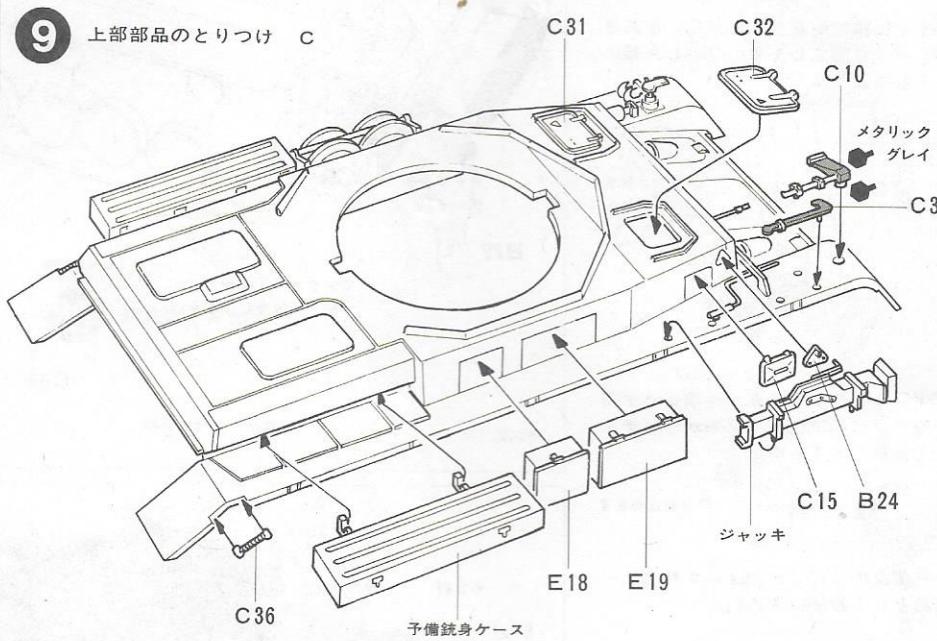
10 《台座のくみたて》

E13を忘れないで E27、E28ではさみ込んで下さい。又 E13は回転しますから E27、E28に接着しないで下さい。

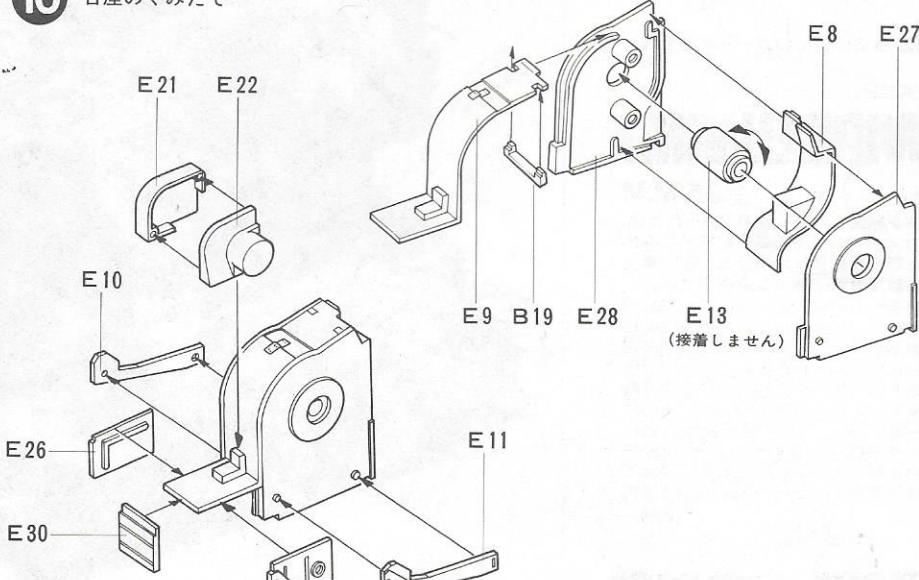
8 上部部品のとりつけ B



9 上部部品のとりつけ C



10 台座のくみたて

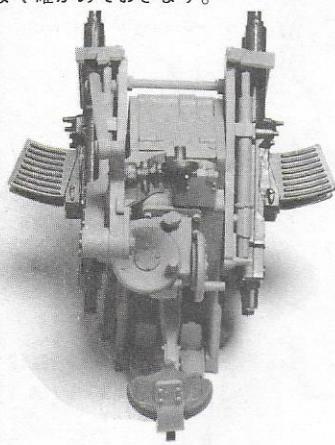


11 《製作部のとりつけ》

各部品は小さいですから各単位ごとに組んでからとりつけるとよいでしょう。又、下側から順に組み込んでゆけば組み立てが楽になります。

12 《機銃座のくみたて》

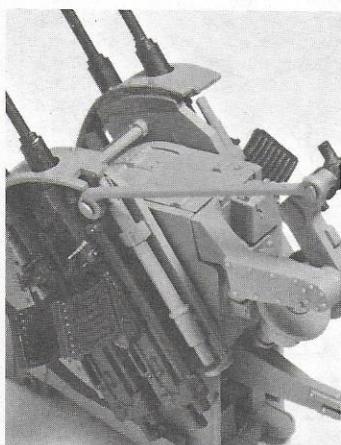
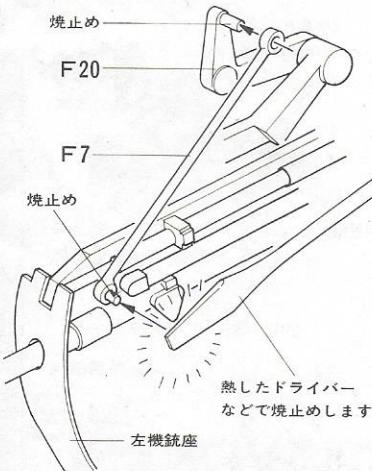
左右の機銃座に、機銃（F14、F18）を2個づつとりつけます。左右をよく確かめておきます。



13 《機銃座のとりつけ》

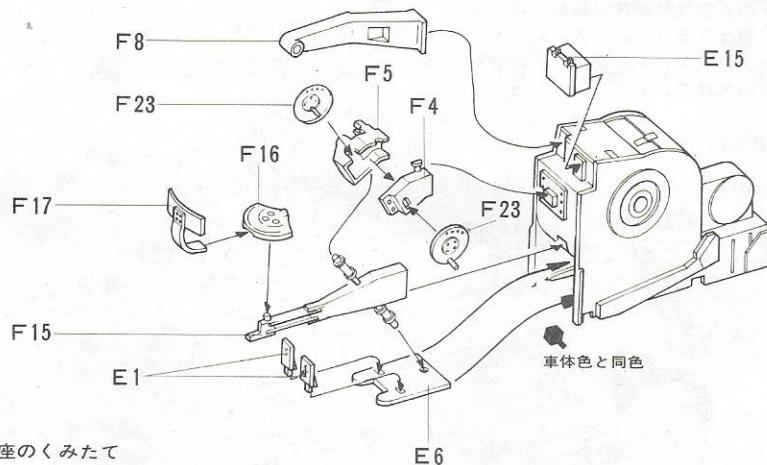
機銃座は上下に動かせます。**10**で組込んだE13と接着して下さい。又F7、F20も可動となります。左機銃座と連動するよう焼止めして下さい。

《F7の焼止め》



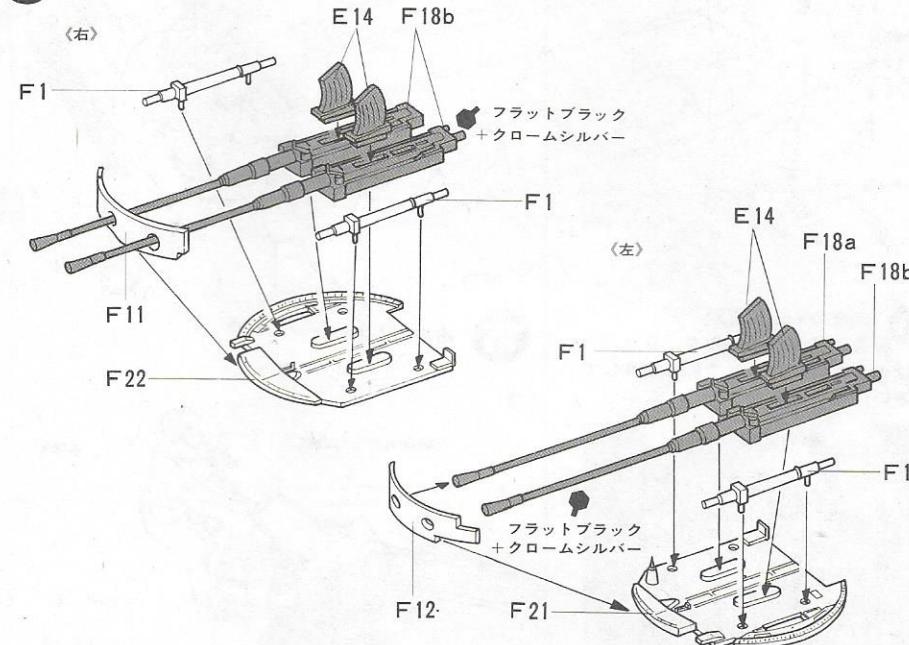
11

製作部のとりつけ



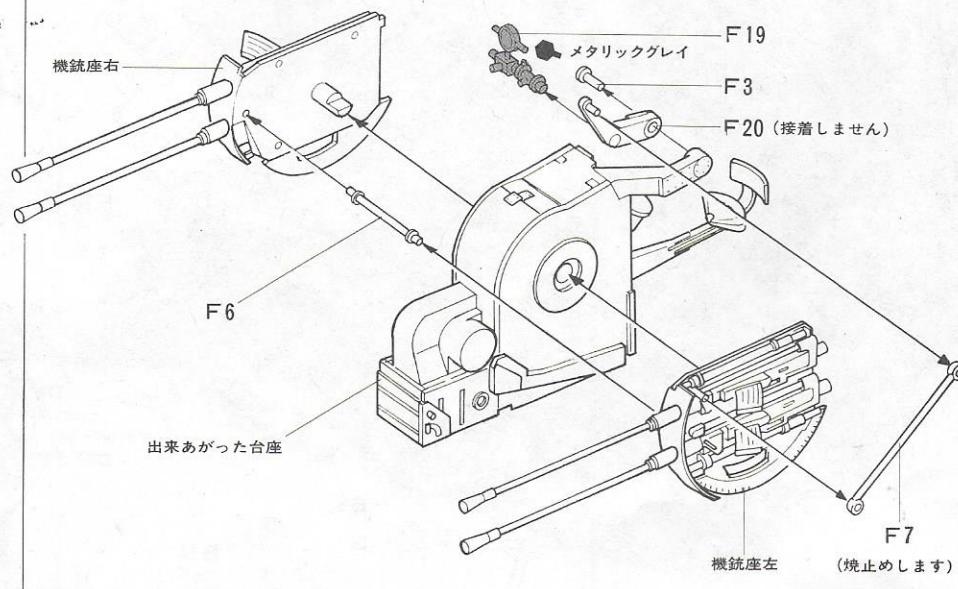
12

機銃座のくみたて



13

機銃座のとりつけ



14 《人形のくみたて》

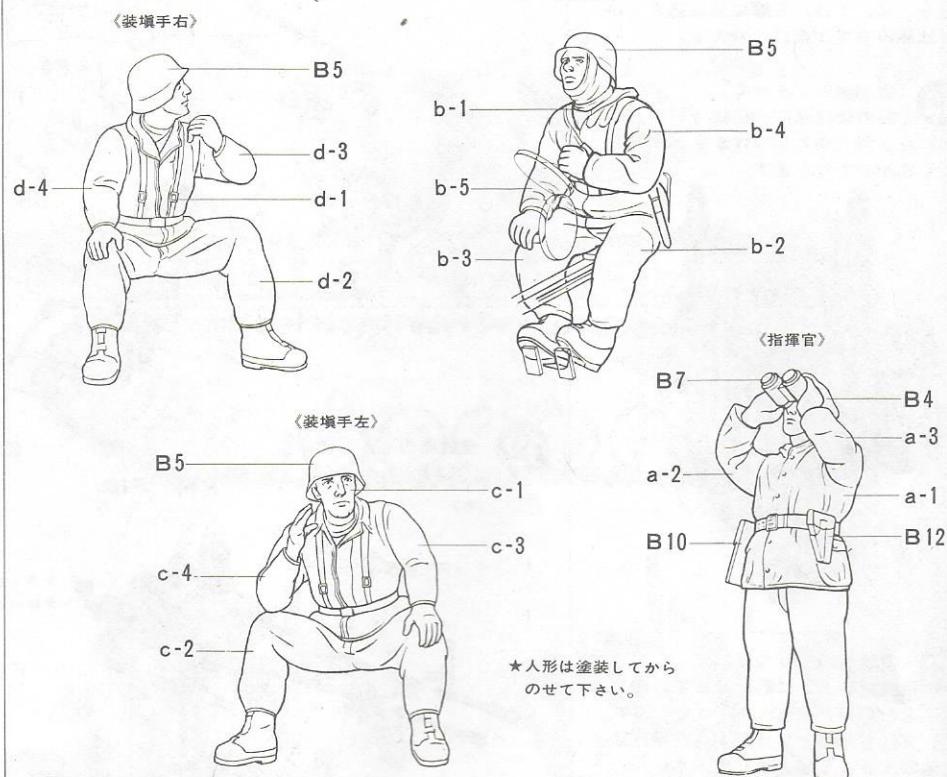
《人形の塗装》

キットの人形は秋期迷彩服着用の人形です、色はフラットアース、レッドブラウン、カーキ、ダークグリーンの4色でそめられています。

《秋期迷彩服》

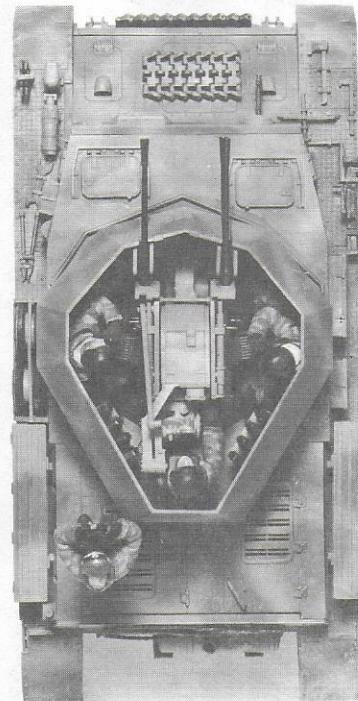


14 人形のくみたて

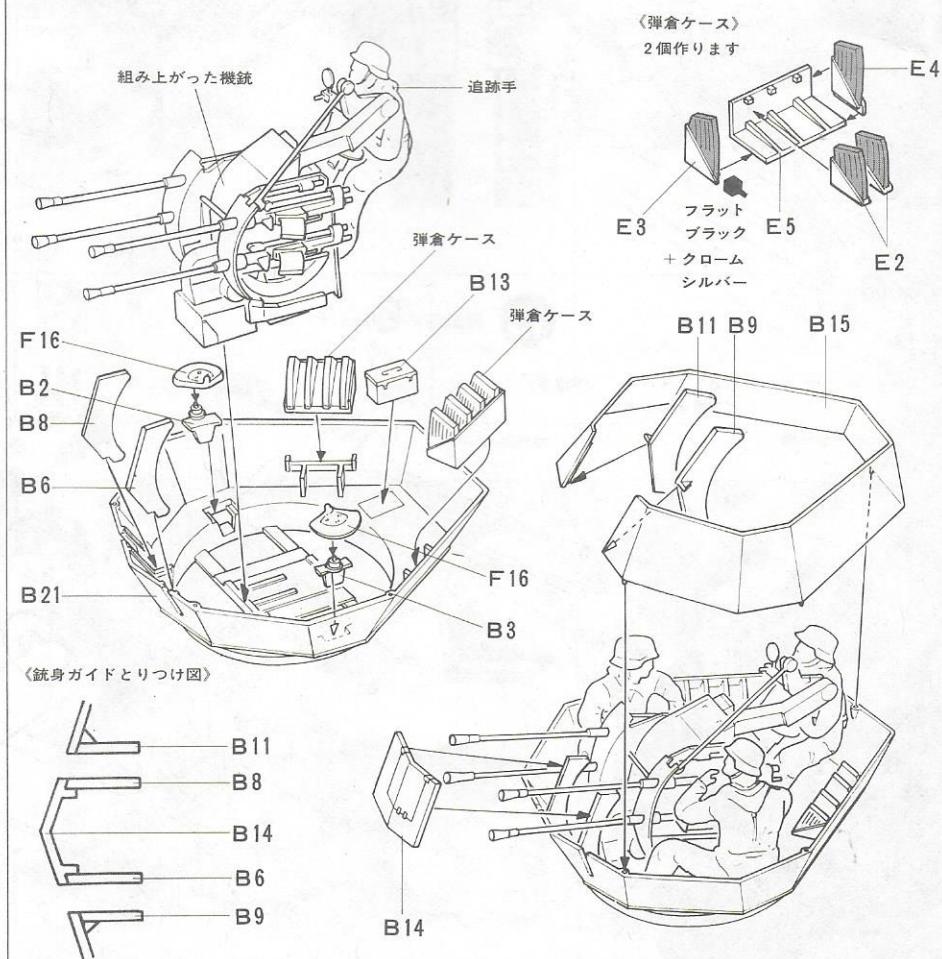


15 《砲塔のくみたて》

銃身ガイドB 6、B 8、B 9、B 11はとりつけ図を参考にして接着して下さい。



15 砲塔のくみたて

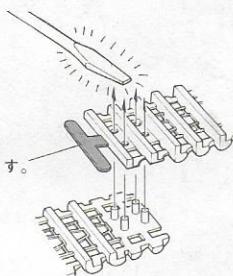


16 〈完成〉

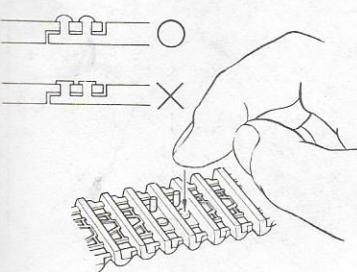
砲塔は図の位置ではめ矢印の方向にまわします、車体上部と下部は接着して下さい。

《キャタピラの上手な焼き止め方法》

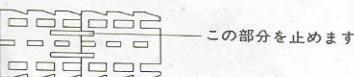
- ①キャタピラの不要部を切りとり、面端のピンをはめこみます。
- ②ローソクなどで焼いた先の細いドライバーやくぎの頭でピンをそっと押しつぶして下さい。



- ③すぐに指で焼きつぶしたピンをおさえしっかりと固定します。つぶした頭は丸くなるようにして下さい。



- ④キャタピラが切れたり焼き止めが弱い場合には図の位置を黒糸かホッチキスで補強して下さい。



- ★E部品のE17、E20はアクセサリー部品としてお使い下さい。

★部品請求にはこのカードが必要です。

WIRBELWIND
1/35 M.M

部品を紛失したり、破損なさった方は、このカードの必要部品を丸でかこみ代金を現金書留又は定額替為で田宮模型企画部検査課迄お申し込み下さい。

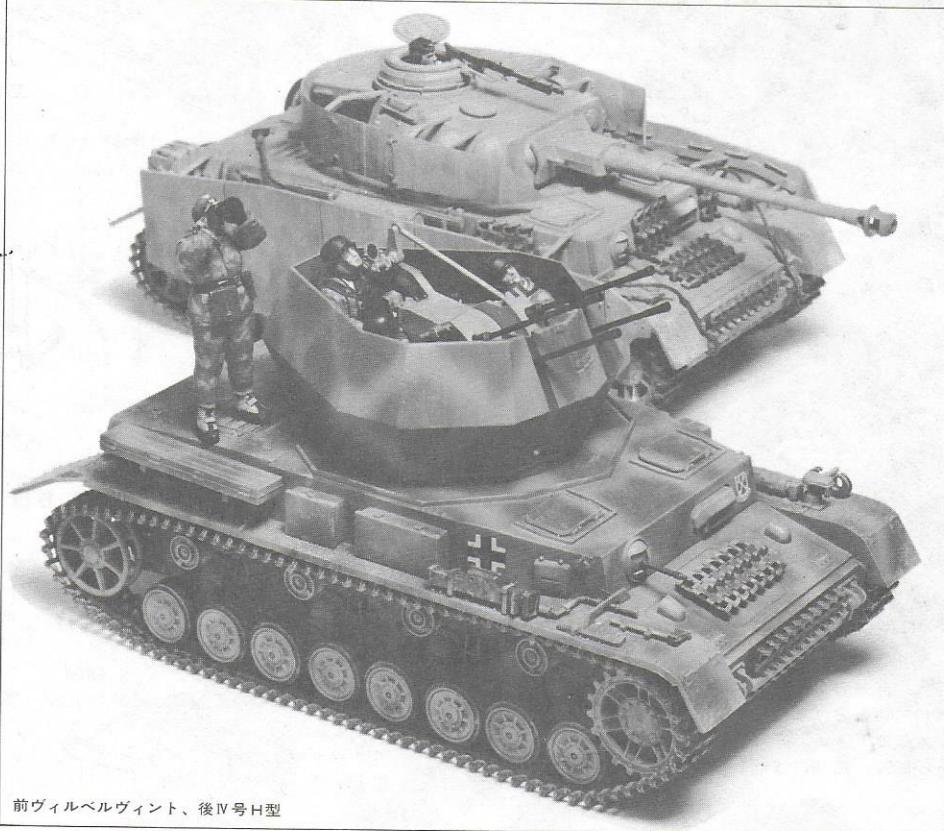
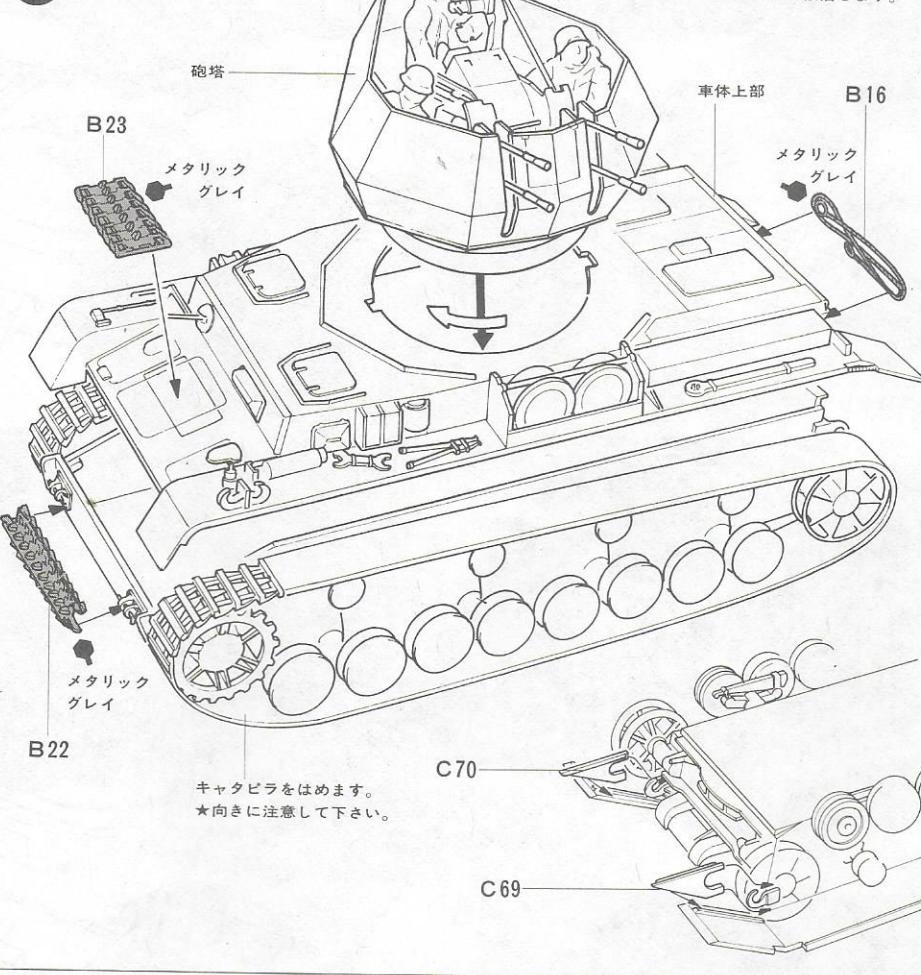
A部品	350円
B部品	300円
C部品	300円
E部品	円
F部品	円
ボリキャップ	100円
マーク	120円
キャタピラ	180円
車体上部	300円
車体下部	300円

7607

田宮模型
静岡市小鹿628 〒422

16 完成

★上部と下部は接着します。



前ヴィルベルヴィント、後IV号H型

PAINTING



APPLYING DECALS

《ヴィルベルヴィントの塗装》

ヴィルベルヴィントの生産は1943年に開始されました。この年の2月18日、軍の通達により、今までのジャーマングレイを基本とした塗装はすべて廃止され、ダークイエローの単一色が基本となつたため、ヴィルベルヴィントの塗装色はダークイエローと考えられます。その他の色（迷彩）は、戦域により現地軍が基本色の上にかねて塗ったもので、その迷彩のパターンは一定ではありませんでした。色はダークイエローの基本色の上にレッドブラウン、ダークグリーンが、はけや、スプレーがで自由に迷彩されました。

《使用する塗料の色》

★こまかい部分の塗装指示は組立図中に指示しています。

★タミヤからは手軽に使えるスプレー式のタミヤカラーと筆塗りのエナメル塗料パクトラタミヤカラーを販売しています。色の正確なタミヤのカラーをご使用下さい。各部の色指示はパクトラタミヤカラーで指示しました。

フラットブラック	XF-1
フラットホワイト	XF-2
フラットブラウン	XF-10
フラットアース	XF-52
メタリックグレイ	XF-56
ダークイエロー	XF-60
ダークグリーン	XF-61
レッドブラウン	XF-64
フィールドグレイ	XF-65
クロームシルバー	X-11
フレッシュ	X-15

PACTRATAMIYA

《ヴィルベルヴィントのマーク》

★右図を参考にしてマークをはって下さい。

《秋期迷彩服の模様》



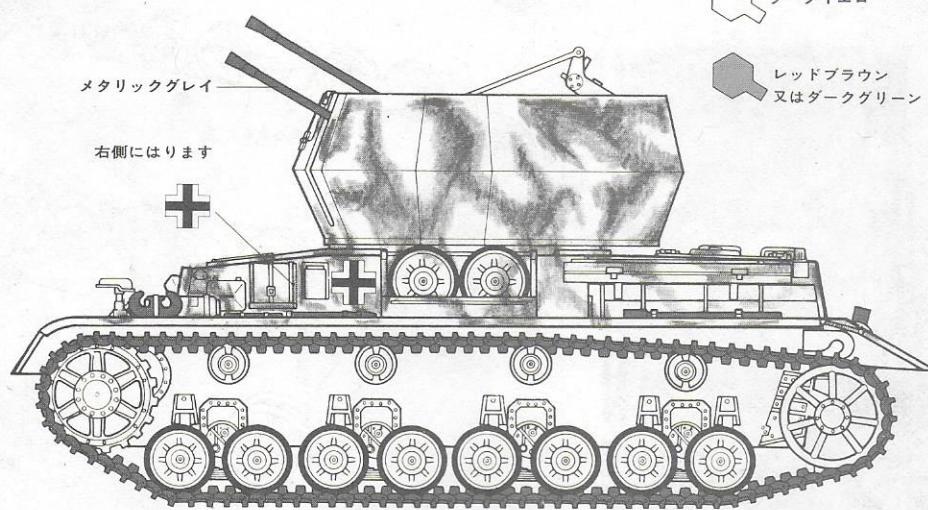
Flat Earth

Red Brown

Dark Green

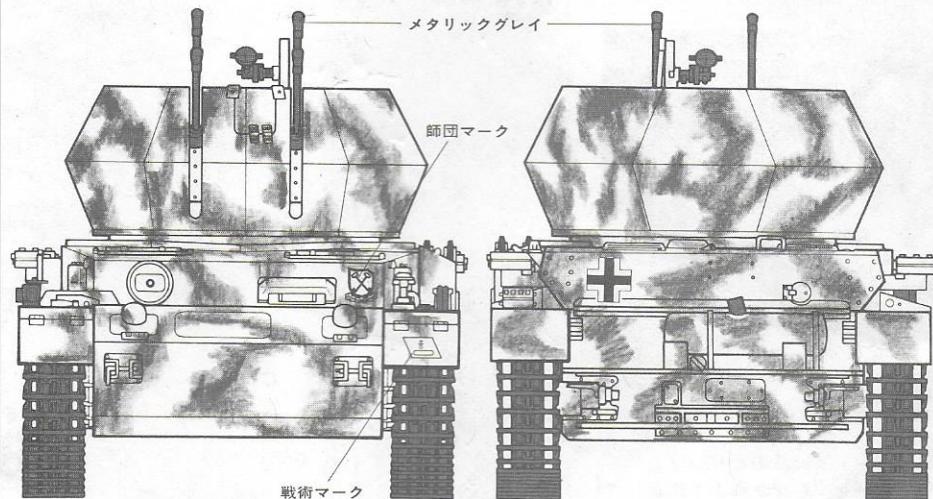
Khaki

《ヴィルベルヴィントの塗装》



ダークイエロー

レッドブラウン
又はダークグリーン



《師団マーク》



第1SS戦車師団



第21戦車師団



第116戦車師団



第2SS戦車師団

《戦術マーク》

